



晴海選手村宿泊施設で提供する 氷の調達について

大会運営局

2021年4月14日

晴海選手村宿泊施設で提供する氷の調達について

1 目的

晴海選手村宿泊施設で提供する氷は、主にアイスバスに使用されることを想定している。IOCより「アイスバスの使用は選手のコンディションを整えるための重要な医療行為である」として、NOC/NPCによる持込み・使用を受け入れることについて強く要求されており、多くのNOC/NPCがアイスバスの持込みを計画している。

新型コロナウイルス感染対策の一環である「衛生管理の徹底」の観点より、個人の使用ごとに氷の交換を行うサイクルを基準として氷の使用量を試算した結果、従来計画していた製氷機のみでは提供量が不足する。これを補う手段として、製氷機増設可能な場所は不足していることから、氷を購入し、必要量を確保する。

2 契約条件

購入予定量	後述
納品場所	宿泊棟地下のアイスストッカー18か所への直接納品
納品時間及び回数	制限無し
氷の種類	最も汎用性の高いもの：キューブアイス若しくはかち割り氷のいずれか (1kg/袋×10袋/ダンボール梱包)
車両条件	2t車での持ち込み
注文量確定	4営業日前

晴海選手村宿泊施設で提供する氷の調達について

3 氷の必要量の算定

	当初計画	新型コロナウイルス感染対策
アイスバス台数	オリ：111台 パラ：58台	変更なし
水量（1台あたり）	200 ℓ	
水道水温	28℃	
目標水温（冷却後）	13℃	
氷の使用量（1台あたり） ※熱量（cal）より試算	31 k g	
使用時間 ※表下に注記	朝5時間、夕5時間	
水及び氷の入れ替え回数	2.5回	10回
係数	なし ※製氷機製氷能力のみの氷量試算のため	0.75 ※冷却装置を利用しないアイスバスの割合
氷の必要量（1日）	オリ：111×31×2.5=8,602.5kg パラ：58×31×2.5=4,495kg	オリ：111×31×10×0.75=25,808kg パラ：58×31×10×0.75=13,485kg

※使用時間：実際の使用時間は予測しきれないため、従来計画の製氷機製氷能力に基づく氷量と競技開催時間から想定。

参考：製氷機の運営計画

- ・ 宿泊施設各棟 1 台（計21台）
- ・ 製氷能力（21台）：9,870kg/日

※製氷能力は、リオ大会で準備した製氷機の製氷能力を参考

晴海選手村宿泊施設で提供する氷の調達について

4 経費総計

(1) 数量（製氷機供給不足分の氷必要量）

オリ：16t/日×21日（7/19～8/8）＝336t

パラ：4t/日×17日（8/20～9/5）＝68t 合計：404t（404,000kg）

【試算根拠】

[新型コロナウイルス感染対策に必要な氷量] - [既存製氷機の製氷能力]

⇒オリ：25,808kg/日 - 9,870kg/日 = 15,938kg/日、パラ：13,485kg - 9,870kg/日 = 3,615kg/日

(2) 金額

V 5 予算の範囲内